

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより 第32回

土蔵造りの商家が立ち並び
宮の橋付近



は宇都宮町民の寄付に
よってまかなわれた。

に伴うもので、それまでは、
その上流にあった幸橋もしく
は下流の押切橋(現旭橋)が、
市街と田川東岸にあった博
労町、川向町を結んでいた。
特に押切橋の歴史は古く、
江戸時代初期の一六七〇(寛
文十)年ころには、長さ二十四間
もの大土橋が架けられており、
水戸、真岡方面へ向かう宇都宮
城下の出入口となっていた。橋名
は町名からとったもので、その名
は、宇都宮城築城の際、不要な
鏡が池の水を涵らすために湿地に
水路を掘り、田川に押し流した
ことに由来する。また、幸橋は
かつて上河原橋と呼ばれていたが、
一八八一(明治十四)年の明治天
皇(巡幸にちなんで改称された。
新道と新橋の建設には、多額
の工事費用を要した。上河原町
から真つ直ぐ田川を越え、駅と
結ぶために、宝蔵寺境内に道
路を通したという逸話が今
に残る。宇都宮町はこれら
工事にかかる経費の半分、
三千八百七円を日本鉄道
会社が負担してくれるよ
う、ときの横山県令を
通して申し入れ、残り
は宇都宮町民の寄付に
よってまかなわれた。



現在の宮の橋

しかし、宮の橋は木橋だったた
め台風などの水害によりたびた
び流出した。そのため、一九〇九
(明治四十二年)ころ、欄干に鋼
材を用いた橋に改装され、宇都
宮の表玄関にあざわしい宮の橋が
誕生した。

宮の橋

宇都宮の街中を南北に流れる
田川。時代の変遷によつて、その
風景は変わったが、川幅いっぽいに
ゆうゆうと流れる様は、昔も今
も変わらない。近年では川の浄化
が実り、宮の橋付近で鮎竿をふ
るう太公望の姿を見かけるよう
になった。

宇都宮の表玄関にあたる「宮の
橋」が架けられたのは、東北本線
宇都宮駅が開業した翌年一八八六
(明治十九)年のこと。橋長三〇
四、幅一五呎の木橋が最初だった。
架橋は駅と市街を結ぶ新道開削



田川の流れ

一八九八(明治三十一年)発行の
「宇都宮繁盛記」には、宮の橋に
ついて次のように記している。「京
土産の錦繪に観る、吾妻橋とや
思はんひが眼ありや無きや、徳
川家を慕ふ老爺の眼には最と奇
くし映するならむ、此処を渡れ
ば宇都宮の本街に下さつ」。旅人
の眼に、たいそう大きな名橋と
映つたのに違いない。